

K Program強化に向けた検討プロセスの方向性について (事務局案)

令和8年10月1日

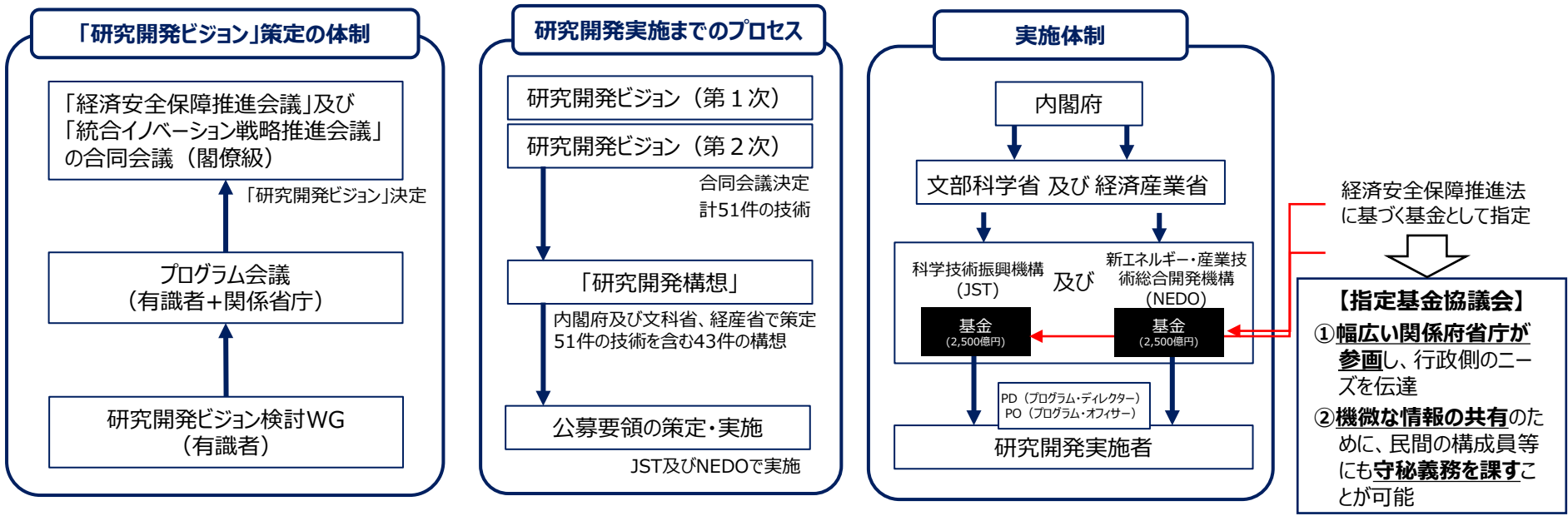
内閣府 政策統括官(経済安全保障担当)付
科学技術・イノベーション推進事務局

- 概要
- 量子・AI技術など、国民・国家への脅威となり得る安全保障と経済を横断する先端技術分野において、我が国の技術的優位性・不可欠性を確保していくためには、国が機動的かつ長期的に重要な先端技術の研究開発を主導し、育成していくことが必要。

○このため令和3年度・4年度の補正予算により、計5,000億円の基金を造成。「経済安全保障推進会議」及び「統合イノベーション戦略推進会議」合同会議で決定した「研究開発ビジョン」（第1次：令和4年9月，第2次：令和5年8月，第2次一部改定：令和7年3月）により、「海洋」「宇宙・航空」「領域横断・サイバー空間」「バイオ」領域を対象として、現在までに51件の技術を選定。

○同研究開発ビジョンに基づき、内閣府と文部科学省・経済産業省が「研究開発構想」を策定し、科学技術振興機構（JST）及び新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募を実施。大学・民間企業等が研究開発に参画。

○また、民生利用のみならず公的利用につなげていくべく、利用ニーズを有する関係府省庁や民間企業等とも連携し、経済安全保障推進法に基づく指定基金協議会を開催。研究実施期間を通じて伴走支援を実施。



- 本年度K Programの最初の研究開発課題開始(令和5年5月)から **3年程度が経過し、中間評価を実施**
- **指定基金協議会を設置できる基金の対象範囲を拡大**すること等を内容とする**経済安保推進法等改正案が成立**
- 「経済財政運営と改革の基本方針2026」や「日本成長戦略」等の政策文書で**K Programの強化等に関して記載**

国家安全保障を支える技術基盤の構築・強化

- 我が国が戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、科学技術をめぐる国際的な主導権争いは更に激化しており、**技術力の差が国家の力を決する**といっても過言ではない。
- 第7期科学技術・イノベーション基本計画においては、**「経済安全保障の観点を重視して技術力を強化する中で得られる成果を国家安全保障に積極的に活用することも重要」**であるとされている。
- 国家安全保障の対象が拡大する中、K Programの強化に当たっては、**「国家安全保障全体をより強く支える技術基盤の切れ目ない構築・強化」を事業の重要なミッションとして位置付ける**ことが期待される。政府においては、当該ミッションを実現するため、特に**「我が国の技術開発の全体像を俯瞰した上での重点技術の選定」**と**「対象技術ごとの特性に応じた支援プロセスの導入」**を重視した制度設計の検討を進め、K Programを強化することが急務である。

プログラムの強化のために重視すべき事項

- シンクタンク機能や多様な有識者等の意見を踏まえながら、我が国の技術開発の**全体像を俯瞰した上での重要技術の選定**
- **技術の動向や特性に応じた育成支援機能の高度化**
- **重要技術の研究開発に関するネットワークの構築・強化**

1.全体像を俯瞰した技術選定

シンクタンク機能の活用や**各分野の専門家等の知見**を得て、技術開発の全体像（強み、勝ち筋、国際水準、外部依存状況、支援状況など）を広く俯瞰。**NSCでの審議**も経て、**我が国として支援対象技術を選定**
⇒**新たな「研究開発ビジョン」を策定すべく検討を進める。**

- ①「研究開発ビジョン検討ワーキンググループ(WG)」の充実を図り、専門的知見を活用
- ②研究推進法人（JST、NEDO）がK Programを推進してきた上での教訓等を反映
- ③関係省庁（研究推進省庁、公的利用官庁 双方）とのこれまで以上に密接な連携

2.変化する技術に即応できる制度への刷新

厳しい周辺環境の変化にスピーディかつアジャイルに対応するため、以下の制度改革を断行。

①制度横断的な対応

- 時々刻々と変化する**技術動向やニーズへの迅速・柔軟な対応**について、ビジョン策定段階から考慮
- 社会・規制環境等の変化に対応した**目標・計画変更の柔軟化**や**実装への進捗に応じた支援拡充、中止判断**が下せる仕組みの設定
- 研究開始までの期間の**短縮化**、メリハリをつけた協議会運営を追求

②個別の技術課題への対応

選定された個々の技術について、対象技術ごとにその特性や開発規模、成熟度等に応じた最適なスキームを適用。例えば、

- 国家大規模PJ**：国家戦略上重要な技術に対する**大規模投資・実証支援**
- 実装加速型PJ**：技術成熟度や事業化可能性の進展に応じた**段階的な支援拡充**
- 探索育成型PJ**：課題提示型公募による**複数プロジェクトの並行支援とポートフォリオ運営**

⇒ **新たな技術の研究開発を通じ、重要技術の研究開発に関する研究者の裾野を拡大**

研究開発ビジョン検討WGの充実を図るため、「Kプロ2.0策定アドバイザリーボード」を立ち上げ、幅広く各分野の専門家の知見を得て、技術開発の全体像を俯瞰

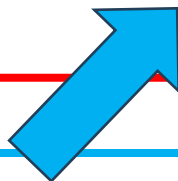
プログラム会議
(有識者＋関係省庁)



Kプロ2.0策定アドバイザリーボード
(有識者)

研究開発ビジョン検討WG

- ・従来の「研究開発ビジョン検討WG」に加え、アカデミア、産業界からの有識者を必要に応じて随時追加し、幅広く、俯瞰的な立場から次期「研究開発ビジョン」における技術の選定等についてプログラム会議に意見を提出。
- ・現行K Programの評価等については引き続き「研究開発ビジョン検討WG」で実施



アカデミア

産業界

令和8年10月1日 第13回プログラム会議・第20回ワーキンググループ合同開催

- ・K Program強化に向けた方針
- ・技術動向の状況把握、FAの現状説明
- ・WG専門委員の充実

11月中旬 第14回プログラム会議・第21回ワーキンググループ合同開催
・「Kプロ2.0策定アドバイザリーボード」からのヒアリング結果報告

12月中旬 第15回プログラム会議・第22回ワーキンググループ合同開催

・国家安全保障会議にて審議

各研究開発
構想案につ
いて検討

令和9年 経済安全保障推進会議・統合イノベ戦略推進会議
・「研究開発ビジョン」決定